第５回旧庄戸中学校後利用分科会　会議録（案）	
日時	平成 30 年 7 月 8 日（日）15：30～17：40
開催場所	野七里地域ケアプラザ　多目的ホール１
出席者	委員：芦川委員長、吉田（敏）委員、射場委員、吉田（正）委員、角田委員、 難波委員、井川委員、荒委員、小林委員、見上委員 一般参加者：牧野氏、川本氏 事務局：栄区区政推進課（4 名） 横浜市政策局政策部政策課（2 名） 横浜市都市整備局地域まちづくり課（1 名） NPO 横浜プランナーズネットワーク（2 名）
欠席者	三宅委員
議　題	１．庁内関係部署との調整状況について ２．「活用案のとりまとめ」の具体化に向けた検討について ３．地域による自主運営の事例紹介
内　容	■分科会リーダーの選出 これまでの検討経緯もあるので、前委員長の吉田（敏）委員をリーダーに選出する。 ■意見交換 事務局より議題１及び２に関する資料説明の後、意見交換を行った。 （説明主旨） ・区としては、市が敷地全体を保有し、市が校舎Ｂ棟と体育館の敷地部分をコミュニティハウスや地域防災拠点として活用し、残りの敷地部分を事業者に貸付する方向で進めたい。 ・現建物は学校として建築規制が許可されていた部分があるので、後利用に際しては調査、検討が必要である。 ＜区からの提案「方向性（案)）について＞ ・敷地は、全部売却或は全部貸付ではないのか？ ⇒体育館、校舎 B 棟がある敷地は、コミュニティ機能や地域防災機能として市保有地で活用したいという趣旨である。敷地境界線の位置までは検討していない。 ＜当委員会から区長への助言・意見書について＞ ・検討時間も限られているので、「活用案のとりまとめ」を活かした形で助言のタタキ台をつくるのはどうか？ ⇒やれること、やれないこと、実現可能なものを整理して選んでいかないと早く使えない。長期的視点を持ちながらも、希望のものを優先的に出していく。 ⇒区としては、調整するにあたって少し絞っていただくと取組みやすい。優先

	順位を付けるという考え方もある。 ⇒コミュニティハウスを再整備する、防災拠点を残すことはわかりやすい。 ⇒助言なので、単なる絞りこみは出来ない。このまま助言の中に入れてもいいのではないか。 ⇒「柱１」の福祉的な支援は、高齢化が進む現状を踏まえて優先的に整備する施設などを取り上げていくことも考えられる。 ⇒活用案には「できたら良いな」というものもあるが、現実的には困難なものもある。 ・上郷東地区は超高齢化が進んでいる地域もあるので、「柱３」だけでは足りない。介護予防センターなどが想定できるか。 ⇒実現性は検討しないといけない。 ・2025 年問題を目前にして危機感が募っている。この危機感をクリヤーしていける後活用が必要である。 ＜現行規制の取り扱いについて＞ ・「活用案のとりまとめ」には、現行法では実現困難なものも入っている。 ・住民のための法規制であり、社会状況が変われば変えていくことも可能である。 ・実現可能かどうかも当分科会で検討するのか？　難しいのではないか？ ⇒概ねは自分達でも検討できるが、そうしないのであれば活用案はそのままで良いと思う。 ⇒現行規制では出来ないことも承知している。「活用案のとりまとめ」の提出によって、行政内で実現に向けた次のステップを考えてもらうことでいいと思う。 ＜その他＞ ・「跡地活用の決定までの流れ」のスケジュールに日程が入っていないのは、今の段階では決まっていないという理解で良いか？ ⇒そうです。 ・地域防災拠点の運営委員会との調整などの予定はあるのか？こういう議論はあることだけは地元に報告しておきたい。 ・＜要望＞建屋の図面があると考えやすいので入手したい。 ＜これからの進め方・まとめ＞ ・12 月までには助言のタタキ台を作る。1 月中旬までには完成。2 月中旬までには提出できる形にしたい。 ・次回、どういう形なら地元の声を届けることが出来るのか？　区と擦り合わせがしたい。 ・地域の方々に分科会の活動を知っていただく機会を秋ごろに予定している。

	＜次回の分科会について＞ ・日程　 9 月 30 日（日）13 時から ・会場　（予定）庄戸中学校コミュニティハウス
資料	・次第（案）　（裏面：分科会委員名簿） ・【資料】第 5 回旧庄戸中学校後利用分科会（パワーポイント印刷資料） ・【参考資料】用途地域内の建築物の用途制限 ※他、一般参加者より「配布資料」あり

第３回こども・子育て分科会　会議録（案）	
日時	平成 30 年 7 月 29 日（日）13:00～14:30
開催場所	旧庄戸中学校コミュニティハウス
出席者	委員：芦川委員長、吉田（敏）委員、本田委員、高橋（勝）委員、井川委員、齋藤委員 一般参加者：川本氏、伊藤氏、朝田氏 事務局：栄区区政推進課（3 名） NPO 横浜プランナーズネットワーク（2 名） 傍聴：２名（議員他）
欠席者	森委員、豊田委員、見上委員
議　題	１．平成 29 年度こども・子育て分科会　意見交換まとめの確認 ２．旧庄戸中学校後利用分科会との連携について意見交換
内　容	■分科会リーダーの選出 昨年度に引き続き庄戸小 PTA 会長　森委員を選出する。本日は欠席のため、司会は井川委員が行う。 ■本日初参加者を分科会メンバーに加えることについて 全員の了承後、本人の承諾も得られたので、今後分科会メンバーとして参加する。 ■意見交換 １．平成 29 年度の意見交換まとめについて ・小学校ＰＴＡ役員、放課後保育の保護者にヒアリングした結果である。出された意見を列記しただけなので未整理で、意見、希望も含んでいる。 ・今後、どのように取り扱っていくのか？ ⇒まとめる必要はない。 ⇒取捨選択して、「上郷東地区まちづくり構想」の実現、旧庄戸中学校後利用に繋げていく。 ＜庄戸中学校の後利用施設に『大型保育所等』整備の記述について＞ ・この地域の保育所は不足しているのか？　近隣幼稚園に影響しないか。 ⇒需要調査の結果を踏まえての意見ではない。働く場と保育所がセットであったら良いという趣旨であった。 ＜こどもカフェ＞ ・『～取り組み検討中』とあるが、すでに取り組んでいる。 ・取り組みの概要紹介が次のようにあった。 小・中学校ＰＴＡ、民生・児童委員、保健活動委員が中心となり、地区社協の協力を得て本年 3 月プレオープンした。4 月から年間計画をつくり月 1 回開催している。毎回小中学生 30 人程、スタッフを含め 50 名程が集っている。 ・問題は開催場所。固定化していないので、コミュニティハウスが使用できると良い。 ・学習支援もできるようにと英語と数学、国語（コミュニケーション）に対応できるボランティアがスタンバイしているが、まだリクエストはない。 ・中学校からの要請もあり、地域コーディネーターが指導者を集めている。 ＜寺子屋タイム＞ ・地区センターで数年前から開催している。ボランティアによる学習指導で、小中学生が対象である。 ２．旧庄戸中学校後利用分科会との連携について ・「活用案のとりまとめ　柱２」に、本分科会にかかわる（『～若い世代の定住支援を強化する』）こともあるので、一緒に協議したい。 ・「柱３」でも多世代が集える取り組みは集約できる。

	・合同で検討し、子育て世代が居住しながら働ける住まい、街づくりを考えたい。 ⇒鎌倉市では、在宅ビジネスのシステムを作る『研究会の立ち上げ』が始まったようである。 ・合同分科会の中で、意見参加できるのは「柱２」だけになるのか？ ⇒たて割ではなく、自由に一体的に議論していく。 ⇒「活用案のとりまとめ」は全て関連している項目なのでつながっていく。 ⇒アートといった魅力的な取り組みなど、新しい視点、地域特性を打ち出せるような視点があっても良い。 ３．その他 ・「区長への提言」は、優先順位をつけるなどして具体性のあるものにしたい。 ・「区長への助言」の提出後はどうなるのか？　進め方のイメージを知りたい。 ⇒本委員会は平成 30 年度末で終了するが、以降も必要に応じて情報共有・意見交換の場をつくることが想定されている。 ⇒地域は行政の取組みをチェックしていく。地域に求められることも出てくる。 ・情報発信が必要である。まちづくりの取組に関心の高い子供たちもいるので、適切な情報提供があれば参加するだろう。 ・本委員会の基本的な方向はまとまっているので、早く実行できるように進めたい。 ＜次回の分科会について＞ 旧庄戸中学校後利用分科会と合同で開催する。 ・日程　 9 月 30 日（日）13 時から ・会場　　庄戸中学校コミュニティハウス
資料	・次第（案）　（裏面：分科会委員名簿） ・【資料１】平成 29 年度こども・子育て分科会　意見交換まとめ ・【資料２】旧庄戸中学校活用案のとりまとめ